資料１－２

「遠隔医療の推進方策に関する懇談会」WG
主な論点項目について（案）

（中間とりまとめにおける提言等について議論を深めるべき項目）

１．遠隔医療のニーズ・有効性・適用範囲について【提言１関連】

○　以下の共通認識を出発点として、今後の検討、および、モデル事業を進める。

①　遠隔医療は患者のためにあるもので、患者ニーズがあってはじめて必要性が生じる

②　画像診断などを遠隔で専門医が支援することを含めた、医師間、地域医療機関間の連携や支援体制の促進について、また、慢性期（再診）、健康管理、予防医療、生活習慣にかかわる治療・健診・相談・教育等への活用については、遠隔医療のニーズが明らかに存在する

③　機器の導入にあたっては、ポジティブな面とともに負の影響も考慮する

④　遠隔医療の有効性については、今後、実証と検証が重要である

２．遠隔医療の位置付けについて【提言２関連】

○　「慢性期（再診）、健康管理、予防医療、生活習慣にかかわるもの」については、基本的には遠隔医療が選択可能であることを明らかにすることが必要。当面は、モデル事業を実施するなどして、遠隔医療のエビデンスを蓄積していくことが必要

・　患者の観点からは「対面が基本、遠隔は補完的」の理念を議論するだけでは問題は解決しない

・　現実の制約下で最適な医療サービスの組み合わせを選択可能にすることが肝心である

・　医療システムの中で、遠隔医療は、適切に実施されるなら、有力な選択肢を提供しうるもの

３．診療報酬の適切な活用について【提言３関連】

○　遠隔医療を持続可能なものにすることのひとつの方策として、モデル事業などでの検証を進める

○　遠隔医療にかかわる診療報酬を適切に活用することを検討する必要。安全性・有効性等について科学的根拠に基づくデータ（エビデンス）があると検証されたものについては、将来は検討の対象

４．補助金、地方交付税など財政支援措置の活用、その他の方策の推進について【提言４関連】

○　関係各機関や受益者の費用負担の仕組み

○　補助金・地方交付税など財政支援措置の活用

○　コスト削減の可能性、費用対効果を高める方策

○　地域医療機関の連携を推進するための方策

○　遠隔医療の拠点となる病院や既存制度の活用も含めた制度面での検討

○　通信インフラや情報システムの整備と標準化などを推進する方策

等